

「神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond」 新たにアーティスト18組を発表！ ～6月1日(土)からはお得な前売パスポートを販売～

六甲山観光株式会社(本社:神戸市灘区 社長:寺西公彦)は、2024年8月24日(土)から11月24日(日)まで神戸・六甲山上を舞台に現代アートの芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond」を開催します。
この度、新たに招待アーティスト18組が決定しましたのでお知らせします。今年は公募アーティストを含め、過去最多の約60組が出展予定です。

また、通常価格よりもお得な前売パスポートを、6月1日(土)～8月23日(金)の期間で販売します。



アートワーク:いくらまりえ/撮影場所:ROKKO 森の音ミュージアム

《第2弾 招待アーティスト》※50音順

青木陵子+伊藤存、青野文昭、Artist in Residence KOBE (AiRK)、雨宮庸介、アルネ・ヘンドリックス、nl/rokkoproject、大野智史、小出ナオキ、田岡和也×Omult.Venzer、竹中美幸、檜木野淑子、西田秀己、野村由香、堀田ゆうか、マキコムズ、三原聡一郎、ロプ・ファン・ミエルロ、渡辺篤(アイムヒア プロジェクト)

※2024年5月31日現在。各アーティストのプロフィールは別紙をご確認ください。

公募アーティストは6月下旬に決定します。詳しくは(<https://www.rokkomeetsart.jp/>)をご確認ください。

◆「前売パスポート」の販売について

【販売券種】 ナイトパス付鑑賞パスポート…有料会場+「ひかりの森～夜の芸術散歩～」会場への入場
鑑賞パスポート……………有料会場への入場
ナイトパス……………「ひかりの森～夜の芸術散歩～」会場への入場

※当芸術祭会期限で「シダレミュージアム」に割引入場できるセット券も販売しています。

詳しくは次項の開催概要をご覧ください。

【販売期間】 2024年6月1日(土)～8月23日(金)

【販売場所】 e+、チケットぴあ、asoview!、ローソンチケット、ArtSticker、HxCrosstowns、LINKTIVITY

<リリースに関するお問い合わせ先>

六甲山観光株式会社/神戸六甲ミーツ・アート事務局

TEL:078-891-0048(平日 9:00～18:00) FAX:078-891-1011

HP: <https://rokkomeetsart.jp/>



公式 HP



《神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond 開催概要》

【会期】2024年8月24日(土)～11月24日(日)

【会場】ROKKO 森の音ミュージアム、六甲高山植物園、トレイルエリア、風の教会エリア、六甲ガーデンテラスエリア、六甲ケーブル(六甲ケーブル下駅・山上駅・天覧台)、六甲有馬ロープウェー六甲山頂駅、兵庫県立六甲山ビジターセンター(記念碑台)、六甲山サイレンスリゾート(旧六甲山ホテル)

※ROKKO 森の音ミュージアム、六甲高山植物園、トレイルエリア(一部会場)、風の教会エリアは有料会場

関連イベント[ひかりの森～夜の芸術散歩～]

【会期】2024年9月21日(土)～11月24日(日)の土日祝の夜間

【会場】ROKKO 森の音ミュージアム、六甲高山植物園

【料金】大人＝中学生以上、小人＝4歳～小学生 3歳以下無料

種類	販売期間	ナイトパス付 鑑賞パスポート		鑑賞パスポート		ナイトパス	
		大人	小人	大人	小人	大人	小人
前売	6月1日～8月23日	3,800円	1,500円	2,800円	1,000円	1,800円	800円
Web割	8月24日～11月24日	3,900円	1,600円	2,900円	1,100円	1,850円	900円
当日	8月24日～11月24日	4,000円	1,700円	3,000円	1,200円	1,900円	950円
対象会場	神戸六甲ミーツ・アート	○		○		—	
	ひかりの森～夜の芸術散歩～	○		—		○	

※上記に大人+800円、小人+400円で「シダレミュージアム」に割引入場できるセット券も販売。

【主催】六甲山観光株式会社、阪神電気鉄道株式会社

【特別助成・協賛】神戸市、阪急阪神ホールディングス株式会社

【総合ディレクター】高見澤清隆

■2024年の取り組みの4つの柱

神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond では、昨年に引き続き以下の取り組みに注力します。

出展アーティストの充実

過去最多となる招待・公募を合わせた60組以上のアーティストの参加を予定しています。国内外から幅広い視点で活動しているアーティストの作品をご紹介します。また、公募作品の募集条件を向上し、より優れた作品を募集・展示します。

芸術祭の象徴となる拠点エリアの充実

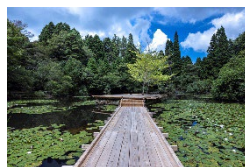
2023年に ROKKO 森の音ミュージアムに新設した野外アートゾーンをさらに拡充し、会期外でも四季を通じてアート作品を鑑賞できる場を充実させます。

トレイルエリアの充実

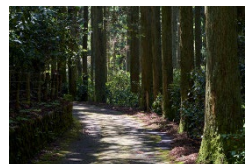
山中の散策路沿いに作品を展示するトレイルエリアをさらに広げ、アート鑑賞の楽しさとともに六甲山の新たな魅力を発掘します。

こどもたちがアートに触れ合える機会の創出

ワークショップ等を通じて自然の中で子どもたちが現代アートに触れられる機会を増やし、次世代の文化芸術の担い手や支え手を育てていきます。



川俣正《六甲の浮き橋とテラス》



トレイルエリア



こどもプログラム

出展決定 招待アーティスト

あおきあやこ いとうぞん
青木 陵子 + 伊藤存

2000 年結成・京都在住

2000 年から共同で活動を開始。交互に素材を交換しながら予測できない展開を生む筋書きのないアニメーションの制作を始める。2011 年より人の情緒の成長を観察し制作された映像インスタレーション作品「9歳までの境地」を継続的に制作。石巻市では、土地の中に在る素材やもの、小さな技術などを見つめ、人がつくる事自体に焦点をあてた作品群を展開。以降、様々な時や場所、人やものに出会いながら、つくることを通して共同で考え続けるプロジェクトを行なっている。



《9 歳までの境地》2011 年、国立国際美術館
撮影:福永一夫

あおのふみあき
青野 文昭

1968 年 宮城県出身・在住

1991 年より「再生と循環」をテーマに活動。「修復」という根源的かつ普遍的な概念を深く掘り下げ、いわゆる「つくるいとなみ」とは異なるタイプの創造性を探求。1996 年頃から、各地で見つけた破片を「修復」したり「補完」したりする試みを始めた。2011 年の東日本大震災で甚大な被害を受けた以後は、多層的な文脈(震災、歴史、場所、記憶、物語など)を考慮した「総合的復元」に取り組んでいる。



《なおよす・代用・合体・侵入・連置「震災後東松島で収拾した車の復元」2013-1》2012 年
あいちトリエンナーレ 2013

アーティスト イン レジデンス コウベ アーク
Artist in Residence KOBE (AiRK)

2022 年結成・兵庫県を拠点に活動

2022 年 4 月より、神戸市中央区北野エリアで運営を開始したアーティスト・イン・レジデンス。神戸市内の文化施設や団体と提携し、招聘されたアーティストを滞在施設として受け入れる「Partnership Program in Kobe」と、自主企画として国内外のアーティストを招聘し、神戸市内でワークショップやイベントを開催するなど、地域とアーティストとの交流を促進する「Program by AiRK」「AiRK OPENCALL」といった活動を軸に、さらなる神戸文化の活性化を目指す。



Photo: Junpei Iwamoto

あめみや ようすけ
雨宮 庸介

1975 年 茨城県生まれ、山梨県在住

2013 年 サンドベルグインスティテュート(アムステルダム)ファインアート修士課程修了

ドローイング、彫刻、パフォーマンスなど多岐にわたるメディウムによって作品を制作。リンゴや石や人間などのありふれたモチーフを扱いながら、超絶技巧や独自の話法などにより、いつのまにか違う位相の現実を身ふれてしまう体験や、認識のアクセルとブレーキを同時に踏み込むような体験を提供する—そんな作品を通じて「現代」と「美術」について再考をうながすような作品を制作している。



《Apple》2024 年

アルネ・ヘンドリックス

1971 年 オランダ生まれ、アムステルダム在住
2011 年 アムステルダム大学卒業

アムステルダム在住のアーティスト・リサーチャーのアルネ・ヘンドリックスはキュレーターや歴史家でもあります。彼の多角的なアプローチはアーティスト、サイエンティスト、そしてジャーナリストの視点を持っています。そのリサーチは人々に、長い間社会で認識されてきたトピックに関して、疑問をもつ手助けをします。彼の主な研究対象は未来の人間の身体、癌の今後の推移、継続的な経済成長、そして人が小さくなる可能性や願望についてです。



《Fatberg》2016 年-現在も継続中、NDSM
Amsterdam

エヌエル ロッコウ プロジェクト
nl / rokkoproject

2022 年 9 月 神戸市六甲山町にて結成・プロジェクトスタート
(主なメンバー 小泉寛明、ロク・ヤンセン)

nl/rokkoproject は、ROKKONOMAD を運営するチームメンバーにより結成された「これからの働き方」を探求するリサーチグループです。オランダ王国大使館の協力のもと、オランダと日本をつなぎ、社会問題にチャレンジするプロジェクト「nl/local project - オランダとつくる、私たちの未来-」のメンバーの一つとして活動しています。



《「成長」って何?》2023 年、ROKKONOMAD
六甲ミーツ・アート芸術散歩 2023 beyond

おおの さとし 大野 智史

1980 年 岐阜県生まれ、山梨県富士吉田市在住
2004 年 東京造形大学造形学部美術学科卒業

1980 年岐阜県生まれ。2004 年東京造形大学卒業。現在山梨県富士吉田市にて制作活動を行っており、原生林のエネルギーを感じながら、自然や現代社会における自我の内面を表し、追求してきた。
自然と人工、生と死、光と闇、東洋と西洋など、相対する価値観を画面の中で融合し、共存させている点が特徴。その中で自画像、両性具有、原生林、亜熱帯植物、プリズム、スピーカーといったモチーフは、重要な要素となっている。その世界観は幻想的でパロディック、豊穣でカオス、空想と現実の両視点で、根源的な答えと調和を探し続けている。



《Sleep in Jungle.》2018 年、
Daimler Contemporary Berlin、ドイツ
Photo by Kenji Takahashi ©Satoshi Ohno,
Courtesy of Tomio Koyama Gallery

こいで 小出 ナオキ

1968 年 愛知県出身、千葉県在住
1992 年 東京造形大学造形学部美術学科卒業

1968 年愛知県生まれ。1992 年に東京造形大学造形学部美術学科を卒業し、現在は千葉県を拠点に制作活動を行っている。
活動初期には、小出の個人史ともいえる生活の転機をテーマに FRP や木などを素材とした立体、写真作品を発表。2010 年滋賀県立陶芸の森での滞在制作より、セラミックでの作品制作を開始し現在まで継続する手法となっている。近年は自分の心の表れを正直に表現し、思考のバイアスを超え物理的な負荷から生まれた、ありそうでない壮大で楽しい作品世界観は不可思議な魅力にあふれている。



《picnic with undead》2017 年、
Photo by Ikuhiro Watanabe
©Naoki Koide, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

た お か か ず や オ マ ル ト ヴ ェ ン ザ ー
田岡 和也 × Omult.Venzer

日常と山体験をことごとく作品化する田岡和也と、制作において「遊びの延長」を指標する Omult.Venzer(オムルトヴェンザー)の、2 度目の協働によるユニット。

田岡は山歩きが趣味で、六甲山にも頻繁に登っている。山に登る度に1冊の ZINE「山と TAOKA」を制作しており、その数は 110 冊を超える。

Omult.Venzer は「遊びの延長」を理念とする、造形アートブランド。「もの作りは生活を豊かにするための根源的な遊びである」との考えから、日常への目線をユーモラスに表現した作品を製作する。

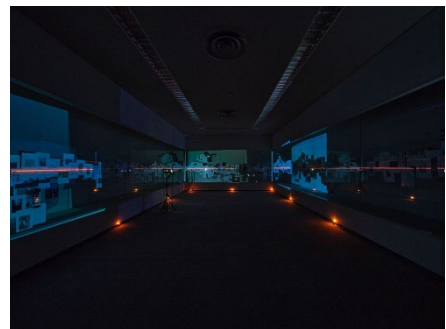


撮影:和田真典
Masanori Wada

た け な か み ゆ き
竹中 美幸

岐阜県出身、東京都在住
多摩美術大学大学院美術研究科修了

主に透明な素材を用いながら、光や影を取り込んだ平面作品やインスタレーションに展開。記憶や記録に興味を持ち、近年では 35mm 映像用ポジフィルムに直接光を感光させ、消えゆくメディアに消えゆくものの影を記録させた作品なども制作。見過ごしてしまいそうな景や、物の記憶をそっと掬い上げ記録し、作品に昇華させている。



《終わらぬ旅》2023 年、
スイトピアセンターアートギャラリー、撮影:中村晃

な ら ぎ の よ し こ
檜 木 野 淑 子

1985 年 大阪府出身・在住
2010 年 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了

植物や山、動物などをモチーフに陶の持つ質感や色彩、形やその重みを使うことで、一目見て心が跳ねるような、何か良いことが起こりそうな予感を抱くものを目指して制作しています。

土に日々を刻み、土から陶になる作品は、重みと厚みを携えながらキラキラと煌めき華やかさや豊かさ、生命力が溢れる喜びを謳い上げます。自然と人が作り上げるユートピアがそこにはあります。

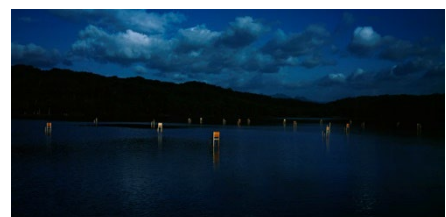


《山のトーン》2024 年、
Kyoto Art for Tomorrow 2024 —京都府新鋭選抜展—
京都文化博物館(京都)

に し だ ひ で み
西田 秀 己

1986 年 北海道出身、東京都在住
2014 年 ベルゲン芸術デザイン大学芸術学部修士課程 修了

ノルウェー王国ベルゲン芸術デザイン大学芸術学部修士課程修了。光州ビエンナーレ(2014 年/韓国光州)、札幌国際芸術祭(2014 年/札幌)ほか多数で作品を発表。ロンドン、台湾での活動を経て、2018 年から 2019 年にかけてポーラ美術振興財団在外研修員としてモスクワに滞在。風景と人との対話を生む環境インスタレーション作家として活動するほか、舞台美術、空間デザイン、インスタレーション、パフォーマンス等も手がける。



《fragile chairs》2017 年、飛生芸術祭 2017
ポロト湖(北海道白老町)撮影:西田秀己

のむら ゆ か
野村 由香

1994 年 岐阜県出身、京都府在住

2019 年 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻 修了

日常生活や社会、自然に通底している根源的な力の作用について関心を持っています。世界を動かす力の作用とそのベクトル、そこに流れる固有の時間を造形やインスタレーションとして表現しています。制作を通して日常を別の角度から捉え直すことで、私たちの世界の未知の「かたち」や「わからなさ」に触れ、生きるということはどういうことなのかを考えようとしています。



《池のかめが顔をだして潜る》2022 年、
京芸 transmit program 2022
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、撮影:来田猛

ほった
堀田 ゆうか

1999 年 愛知県出身、東京都在住

2022 年 東京藝術大学美術学部油画専攻卒業

絵画表現を起点とし、支持体を切り出し、その場に身体を折り畳んでいくように、イメージを折り重ねていく平面作品や、空間自体を支持体のように捉えたインスタレーション作品など、平面と空間を行き来しながら、捉え所のない身体の気配に触れようと試みる。
また近作では並行して版表現を作品に組み込むなど、様々なメディアを介したドローイングなども制作している。



《からです》2023 年、
からです、AP どのう(茨城)
撮影:室井悠輔

マキコムズ

2013 年結成

2013 年結成。立体が得意なマスタマキコ、平面が得意なカワサキマキによる主に子ども・遊び・作るをキーワードに展開しているクリエイティブユニット。「マキコムズ」は双方の名前からと大人や子ども、周りの人を面白い事に巻き込み、巻き込まれてみよう！という意味も。日常の何気ないことから発想して、巨大な物、長い物、楽しい事、面白い事、バカバカしい事を思いついては、参加型の造形ワークショップや作品にしている。それぞれ二児の母。



《メー坊》2022 年、
六甲ミーツ・アート芸術散歩 2022

み は ら そ う い ち ろ う
三原 聡一郎

1980 年 東京都出身、京都府在住

2006 年 岐阜県立情報科学芸術大学院大学[IAMAS]卒業

世界に対して開かれたシステムを提示し、音、泡、放射線、虹、微生物、苔、気流、土、水そして電子など、物質や現象の「芸術」への読みかえを試みている。2011 年の東日本大震災を機に「空白のプロジェクト」を開始。以降より滞在制作にて、北極圏から熱帯雨林、軍事境界からバイオアトラクタまで、芸術の中心から極限環境に至るまで、これまでに計 9 カ国 18 箇所を渡る。2022 年より「3 月 11 日に波に乗ろう」共同主催。



《自然の監視自然の生成》2019 年、
はかなさの果敢さ(国際芸術センター青森)
撮影:山本糾

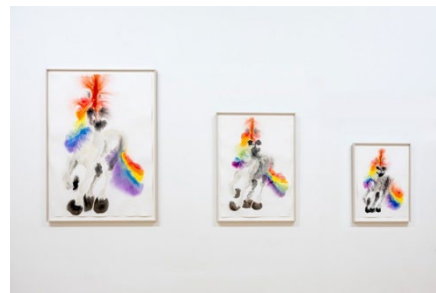
ロブ・ファン・ミエルロ

オランダ出身、アムステルダム在住

2008 年 Willem de Kooning Academy,

Design Academy Eindhoven(アイントハーフェンデザインアカデミー)卒業

アムステルダム在住のイラストレーター/アーティストのロブは 2008 年アイントハーフェンデザインアカデミーを卒業。ファッションやカルチャー、ミュージックの領域でコラボレーションをしています。ロブの遊び心のある作風やアイコン的な作品で知られています。ペインティングだけでなく、毛足の長いモヘアのタペストリーやハンドメイドのウールのラグ、アニメーション作品などがあり、ほとんどの制作工程はドローイングやペインティングから始まります。



《バタフライ》2021 年、ベンチプレイヤーズ個展、Reference Studios ベルリン

わたなべあつし

渡辺 篤 (アイムヒア プロジェクト)

1978 年 神奈川県出身・在住

2009 年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了

現代美術家／社会活動家。大学卒業後に深刻なひきこもりを経験したものの、回復直後から精力的に活動を展開し続けてきた。孤独・孤立にまつわる関係性の課題や、共感可能性と不可能性、社会包摂の在り方などをテーマに扱う。2018 年から「アイムヒア プロジェクト」を主宰し、不可視化されがちな生きづらさやトラウマを抱える人々との協働企画を多数実施。活動家として、当事者運動やケア実践、メディア出演、講演なども多い。



《月はまた昇る(プロジェクト「同じ月を見た日」より)》
2020/2022、瀬戸内国際芸術祭 2022、
屋島山上(香川) 撮影: 宮脇慎太郎

◆資料に関するお問い合わせ先

六甲山観光株式会社／神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond 事務局

TEL:078-891-0048 (平日 9:00~18:00) E-mail:press@rokkosan.com